

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 火・1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生命の科学（口腔の構造と機能）/ Life Science (Structure and Function of Oral Cavity)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小守 壽文 / komorit@nagasaki-u.ac.jp / 生命医科学講座 細胞生物学分野(歯学部基礎研究棟3階) / / 16:30 ~ 18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	小守壽文、藤田修一、水野明夫		
授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標 授業のねらい： 皆さんは、毎日いろいろな人と話をし、いろいろな物を食べて生活しています。このような活動は人間が快適な生活をするのに基本的なことですが、何気なく話をしたり、食べ物をたべていませんか？もし、このような活動が不自由になったらどうなるか考えたことがありますか？ 本科目では、会話や咀嚼で重要な役割を担う「口腔の構造と機能」をテーマに講義を行います。さらに、本科目では口腔の構造と機能の破綻、つまり口腔の疾患が起こるとどのようなようになるか、さらにそれらの疾患をどのように治療するかについても講義を行い、多くの方に「口腔」の役割と重要性を理解してもらうことを目的としています。 授業方法：3人の教員により「口腔の構造と機能」に関する基本的な事項を講義すると共に先端的な研究、治療法も概説します。 授業到達目標： 1) 口腔の基本的な構造と機能を説明できる。2) 歯・骨・軟骨の形成機構を説明できる。3) 口腔領域の疾患を列挙できる。4) 齲蝕・歯周病の病態を説明できる。5) 腫瘍の定義・特徴を説明できる。6) 口腔疾患に関連した全身疾患を説明できる。7) 歯、顎、口腔などに異常状態が生じた結果起こり得る重要な機能障害（開口障害、閉口障害、摂食障害、咀嚼障害、吸啜＜特に哺乳＞障害、嚥下障害、発音障害、呼吸障害、知覚および味覚障害など）に関して、これらの原因（異常状態）と治療について概略理解できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 第1回～第5回（担当：小守）は、口腔の基本的な構造と機能および歯・骨・軟骨の形成機構を解説する。 第6回～第10回（担当：藤田）は口腔領域で頻度の高い疾患について講義し、病理学の臨床領域での役割や基礎研究も言及する。 第11回～第15回（担当：水野）は、口腔領域の異常を外科的立場から解説する。 第1回 オリエンテーション 第2回 口腔の基本的な構造と機能：歯と口のなかの構造およびそれらで良く見られる疾患を解説する。 第3回 口腔の基本的な構造と機能：顎骨・顎関節の構造と機能、頭部の筋肉、リンパ節、唾液腺を解説するとともに、歯と口に症状の現れる全身疾患を例示する。 第4回 歯はどのようにできるか：歯の発生機構を動物実験を例示しながら解説する。 第5回 骨、軟骨はどのようにできるか：骨格の形成機構を先端研究の手法を例示しながら解説する。 第6回 口腔病変と病理組織診断：口腔領域の疾患を概説する。また、医療業務の1つである病理診断について解説する。 第7回 虫歯（齲蝕）：感染症としての齲蝕とその続発症である歯髄炎・根尖性歯周炎を解説する。 第8回 歯周病（歯肉炎・辺縁性歯周炎）：齲蝕と共に歯科での2大疾患である歯周疾患を解説する。 第9回 口腔のがん：腫瘍の定義、及び口腔領域の腫瘍、特に扁平上皮癌について解説する。 第10回 口腔病変を伴う全身疾患：口腔領域に症状を現す全身性疾患をいくつか取りあげ、解説する。 第11回 異常状態による重要な機能障害（開口障害、閉口障害、摂食障害、咀嚼障害、吸啜＜特に哺乳＞障害、嚥下障害、発音障害、呼吸障害、知覚および味覚障害など）について 第12回 局所感染症について 第13回 損傷について 第14回 悪性腫瘍、良性腫瘍について 第15回 口唇口蓋裂、顎変形症について			
キーワード	口、歯、骨、軟骨、齲蝕、歯周疾患、腫瘍、摂食障害、咀嚼障害、口腔がん		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポート(100%)		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	口腔を骨格および消化器の両面からとらえ、口腔の構造、機能、疾患を一体として学ぶ。口腔の役割と重要性を理解する。		
備考(準備学習等)	口腔の基本構造を調べておく。		